

第四学年 社会科 学習指導案

福岡市立 小呂小学校 教諭 井上 歩美

1. 単元名 「健康なくらしをささえる（2） 水とわたしたちのくらし」

2. 単元の目標

- 安全で安定した飲料水の供給を図るために、様々な対策や事業が計画的に行われ、広く他地域の人々の協力を得ながら進められていることを理解している。（知識及び技能）
- 地域の人々の健康な生活の維持と向上のために、浄水場や水道局の人たちが安心して飲める水を届けるようにしている事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現している。（思考力・判断力・表現力）
- 福岡市の上下水道の仕組みと、島の上下水道の仕組みを比べ、島の水事情について興味をもって主体的に調べ学習を行い、まとめようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、人々の生活にとって必要不可欠な水を取り上げる。上下水道の仕組みを資料集やパンフレットで調べたり、実際に施設を見学したり、調査したりして学習することで、飲料水の安定供給を図るために、様々な対策や事業が計画的に、広く他地域の人々の協力を得ながら進められ、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを捉えることができる。

また、自分たちが住んでいる地域と、本土の上下水道の仕組みを比較することで自分たちの住む地域の特色に気づくことができるというよさがある。

(2) 児童観

本校は、福岡市の離島に位置しており、超小規模校である。本学級の児童2名は、島で生まれ育っているため、生活環境が本土と異なることも多い。そのことにより、生活経験が乏しく、本土では当たり前前の社会の仕組みを知らずに生活していることも多い。本単元を通して、地域の人々の健康の維持と向上のために、多くの対策が取られ、事業が他地域の人々と協力して行われているという社会の仕組みを知ることができる点で意義深い。

また、総合的な学習で、「小呂子供山笠」に取り組んだことにより、本土にある行事でも島とは取り組み方や意味に違う点があることに気付いている。そのため、島の昔の生活を調べたり、海水淡水化施設に目を向けたりすることで、島の生活環境に合わせた仕組みが取り入れられ、昔に比べて生活環境が豊かになっていることに気づくことができると思う。

(3) 指導観

本単元の学習にあたっては、まず、普段水を使っている場面を提示し、水には生活用水としての役割と、飲料水としての役割の2つがあることに気付かせる。また、昔の島の水事情についてインタビューを行い、昔は今のように水を豊富に使うことができていなかったことから、「私たちが生活に使っている水はどこからきているのだろう」という疑問をもたせる。

次に水の安全性に目を向けさせるため、浄水とミネラルウォーターを比べることを通して、差がほとんどないことを実感させる。本土でも水道水が飲用できることを話し、本土での上下水道の仕組みを資料集やパンフレット等を使って調べ、安心・安全な水の供給のために多くの人が働き、事業を協力して計画的に進めてきたことに気づくことができるようにする。

最後に島と本土の上下水道の違いを探し、海水淡水化施設を見学することで、水が島の暮らしの豊かさにつながっていることと、エネルギー消費による環境への負荷を考えさせて持続可能な水の供給のために自分たちができることを考えさせる活動につなげていくようにする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…日常生活と水は密接な関係にあるため、私たちの生活が地球環境に大きな負荷をかければ安定した水の供給も不可能になっていくこと。

連携性…持続可能な水の供給には私たちが地球環境のことを考えて努力することが大切であること。

責任性…生活の中での水の消費行動を変えていくことが大切であること。

公平性…誰もが安心・安全に水を使うことができる仕組みが整えられていること。

- ・ 本学習で育てたいESDの資質・能力
 批判的に考える力（クリティカルシンキング）
 環境に配慮した水の使い方をしているか、自分の生活を見つめ直す。
 多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
 「健康的な生活の維持と向上のために持続可能な水の供給を行うには？」について考える。
 コミュニケーションを行う力
 調べ学習や意見交流を通して持続可能な水の供給について意見をつくり上げる。
- ・ 本学習で変容を促すESDの価値観
 世代内の公正
 誰もが安心して安全に水を使うことのできる環境を整える努力をすることが大切である。
 世代間の公正
 次の世代に安定した量の安全な水を引き継いでいく努力をすることが大切である。
 自然環境や生態系保全を重視する
 持続可能な水の供給には、地球環境の保全や負荷を取り除くことが大切である。
 幸福であることを大事にする
 いつでもきれいな水が出ることを当たり前だと思わず、感謝して使うこと。
- ・ 達成が期待されるSDGs
 3 健康・福祉
 6 水と衛生
 13 気候変動

4. 単元の評価規準

| ア 知識・技能 | イ 思考・判断・表現 | ウ 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ① 飲料水の供給の仕組みや経路、他地域の人々の協力などについて資料集等で調べたり、見学をしたりして、必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。 ② 調べたことを図表、文などにまとめ、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康的な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。 | ① 供給の仕組みや経路、他地域の人々の協力などに着目して問いを見出し、飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。 ② 飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて飲料水の供給のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水など自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。 | ① 飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に節水について自分たちが協力できることを考えようとしている。 |

5. 単元の指導計画（全8時間）

| 次 | 主な学習活動 | 学習への支援（・） | 評価（△） 備考（・） |
|---|---|---|------------------------|
| 1 | 1 自分たちの使っている水について考え、昔の小呂島の水道事情について調べ、学習問題を立てる。 ・どのくらいの量の水を使っているのか考えたことがなかった。 ・昔は井戸を使っていたんだ。 ・不便で大変そう。 ・どうやって井戸から水道に変わっていったのだろう。 ・私たちが使う水はどのように集められているのだろう。 | ・課題意識をもたせるために、普段水を使っている場面を提示する。 ・昔の島の水道事情を知っている人に話をしてもらい、昔と今の水道事情が大きく違うことに気づくことができるようにする。 ・実際に島の中にある昔の井戸を探しに行くことを提案する。 ・今は井戸を使っていないことに着目させ、私たちが使っている水はどこからきているのかという疑問をもつことができるようにする。 | △ウ① （主体的） ・学習ノート |

私たちが使う水はどのように集められているのだろう？

| | | | |
|---|---|---|--|
| 2 | <p>2 水の量を確保するための福岡市の取り組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑後川から水を確保しているんだ。 ・「ダム」を作って水をためているんだ。 ・何度も話し合いをして決めているんだな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料として「よいこの社会科」と福岡市が配布しているパンフレットを活用できるようにする。 | <p>△ア① (知識・技能) ・学習ノート</p> |
| | <p>3 水の量を確保するための取り組みについて調べて分かったことをまとめ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ダム」を作ることで自然や人々の暮らしがなくなってしまうこともあるんだな。 ・島には川がないのに、どうやって水の量を確保しているのだろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「量を確保する」ために、自然や人々の暮らしがなくなってしまうこともあることに着目させ、環境への負荷についても考えをもつことができるようにする。 ・今後の活動へと連続して発展させていかせるために、資料から福岡市の取り組みを読みとった後、島の場合はどうかと問いかけることで、島の生活に目を向けることができるようにする。 | <p>△ア② (知識・技能) ・学習ノート</p> <p>△イ① (思考・判断・表現) ・学習ノート</p> |
| | <p>4 安全な水を届けるための福岡市の取り組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浄水とミネラルウォーターには、違いがあるのかあまり分からないな。 ・浄水場では、たくさんの施設で少しずつ水をきれいにしているんだな。 ・24時間働いているんだな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の浄水と、市販のミネラルウォーターの違いを意識させ、水の安全性に目を向けることができるようにする。 ・資料として「よいこの社会科」と福岡市が配布しているパンフレットを活用できるようにする。 | <p>△ア① (知識・技能) ・学習ノート</p> |
| | <p>5 安全な水を届けるための取り組みについて調べて分かったことをまとめ、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの施設を使って、24時間働いてくれている人のおかげできれいな水を飲むことができているんだな。 ・島の施設ではどのような取り組みがされているのだろう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料として「よいこの社会科」と福岡市が配布しているパンフレットを活用できるようにする。 ・今後の活動へと連続して発展させていかせるために、資料から福岡市の取り組みを読みとった後、島の場合はどうかと問いかけることで、島の生活に目を向けることができるようにする。 | <p>△ア② (知識・技能) ・学習ノート</p> <p>△イ① (思考・判断・表現) ・学習ノート</p> |
| <p>海に囲まれている小呂島では、水を安全に安心して使うために、どのような取り組みが行われているのだろう。</p> | | | |
| | <p>6 川がない小呂島で安心・安全に水を届けるための仕組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に働いている人に仕事について質問したい。 ・島に特別にあるしくみはあるのかな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間「探ろう 小呂島」と関連させ、海水を利用した飲料水の確保の仕組みを見学することで、島の生活に合わせた飲料水の供給の仕組みが整えられてきたことについて考えることができるようにする。 | <p>△イ① (思考・判断・表現) ・学習ノート</p> |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> 水の量を確保するために、海水を使っているんだ。 | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間で海水淡水化施設を見学に行くことを提案する。 | <ul style="list-style-type: none"> △ウ① (主体的) ・学習ノート ・行動観察 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>私たちは、今後どのように行動していけばよいのだろう。</p> </div> | | | |
| 3 | <p>7 見学で分かったことをまとめ、自分たちの生活について見つめ直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 博多(本土)でも、水が足りなくなったことがあって、節水への取り組みが進んでいるみたいだよ。 自分たちは、普段どういう風に水を使っているのだろう。 昔井戸を使っていた島の人達は、今はどのように水を使っているのかな。 これからも島で安心・安全に水を使うために、私たちにできることを考えたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 水を大切に使っている身近なモデルを探し、その行動の意味を考えさせることで、持続可能な水の使用について考えることができるようにする。 島で昔不便に水を使っていた人たちに今の気持ちを聞くことで、水を持続可能に使っていく意義を考え、感謝の気持ちをもつことができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> △ウ② (主体的) ・学習ノート △イ② (思考・判断・表現) ・学習ノート |
| | <p>8 将来、島で安心・安全に水を使うために自分たちができることを考え、実践し、表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水を使えるのは、いろんな人達の苦労やはたらき、工夫があったからなんだ。大切に使いたい。 いつまでも島のきれいな自然が保たれるといいな。 これからは少しでも自分にできることをしていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 学習したことを発信する方法として、新聞もしくはスライドを提案する。 | <ul style="list-style-type: none"> △ウ② (主体的) ・学習ノート △イ② (思考・判断・表現) ・学習ノート |

4年社会科「健康な暮らしを支える（2） 水と私たちの暮らし」（全8時間）

みつめる①

暮らしの中で、どんなときに水を使っているのだろう。
1日にどれくらいの量の水を使っているのだろう。

資料「私たちが使う水の量」

よく知らないけど、
たくさん使ってい
そう。

手を洗うときや料理をする
とき、お風呂などたくさん
ある。

数字になると、やっぱりと
っても多いことが分かる。

昔の小呂島は水をどのように集めていたのだろう？

- ・井戸を使っていた。（島の中に○箇所）
- ・井戸の水は塩辛く、生活では使いにくかった。
- ・日照りが続くと、水不足になるため、水はとても貴重なものだった。畑の水は、雨水をためて使っていた。

今は井戸が使われてい
ない。水道の水はどこか
らきているのだろう。

しらべる④

私たちが使う水はどのように集められているのだろう？

福岡市の他地域では、水の量を確保するために、
どのような取り組みが行われているのだろう？

- ・ダム建設や、筑後川からの取水

安全な水は、どのように私たちに届けられて
いるのだろう？

- ・浄水場でのろ過
- ・水道の整備

ダムを作ると、その地域の
自然や人々の暮らしがなくな
ってしまうのか。

川がないと水は確保できな
いの？

いろんな工夫をして、安心
して使える水が作られてい
るんだな。

海に囲まれている小呂島では、水を安全に安心して使うために、どのような取り組みが行われているのだろう。

ふかめる①

海水淡水化施設と貯水槽の併用

- ・量を確保するために、海水淡水化施設が導入された。
- ・下水処理施設がある。（生活排水をそのまま流さない）

見学 海水淡水化施設

島にも福岡市と同じよ
うに上下水道の仕組み
が整っているんだな。

川がない代わりに、海の
水を使う仕組みが整っ
ているんだな。

海の豊かさを守ること
と、水を豊かに使うこと
を両立させるには？

ひろげる①

私たちは、今後どのように行動していけばよいのだろう。

安全に水が使えるのは幸
せなこと。水を出しっぱ
なしにして歯みがきや手
洗いをしないで、節水を
心がける。

水は、つながっている。これか
らも安心して水がつかえるよ
うにするためにも、地球環境全
体のことを考える必要がある。

小呂島のきれいな海
を守っていきたい。